

第6回野洲駅南口周辺整備構想検討委員会結果報告について

1. 開催日時等

平成25年6月12日(水) 午後1時30分～4時00分 於：野洲市役所本館3階第1委員会室

2. 委員等

＜出席委員（18名中18名）＞		50音順
1号委員（学識経験者）		
及川 清昭 委員	松岡 拓公雄 委員長	
2号委員（関係機関・団体を代表する者）		
太田 正己 委員	鍛冶 平太郎 委員	鈴木 あつ子 委員
立入 誠悟 委員	中田 幸子 副委員長	間宮 美佐緒 委員
森野 百代 委員	山本 真嗣 委員	
3号委員（行政機関）		
丸山 徳義 委員	四塚 善弘（代理：長坂 幸一） 委員	山本 利夫 委員
4号委員（公募）		
兒玉 志織 委員	前田 基良 委員	西村 昇 委員
5号委員（市長が認める者）		
樋口 俊助 委員	平野 剛 委員	

＜傍聴者＞

8名

＜報道機関＞

2社

3. 議事等

1) 野洲駅南口周辺整備構想検討のまとめ

○これまでの検討委員会における議論内容をまとめた野洲駅南口周辺整備構想検討に関する報告書（案）を確認

はじめに

- ・報告内容の概要、報告書の位置付けを記載

→ 修正なし

1 対象区域の概要

- ・対象区域、都市計画法に関連する状況、経緯（昭和50年代～現在）を記載

→ P 2、対象区域図内に既存施設名を追記すること

P 4、経緯について、アサヒビール(株)所有地の購入検討の際に明らかとなった事実を追記すること

2 野洲駅南口周辺における課題

- ・3点の課題（にぎわいが乏しい、インフラ整備が不十分、既存施設に課題がある）を記載

→ 修正なし

3 野洲駅南口周辺整備構想の検討におけるコンセプト

- ・第1次野洲市総合計画や都市計画マスタープランにおける整備方針をコンセプトに検討すること

- ・キーワードとして「成長する駅前」を挙げ、約20年後を将来像として見据えること

- ・野洲市における人口推移、野洲駅の利用者数について整理したこと

を記載

→ P 6、約20年後を将来像として見据えることについて、約20年後にしか整備が完成しない、それまで整備がされないといった誤解を与えないために、段階的整備を進めることを追記すること

→ P 7、人口推移について、平成25年3月に公表された国立社会保障・人口問題研究所の野洲市における将来推計人口と異なっていることから、そのデータや理由を追記すること

⇒市の推計では、住民基本台帳・外国人登録の実態に即した推計を実施

→ 野洲駅の一日平均旅客乗車人員の最新データは平成24年13,675人であることから修正すること

→ 野洲駅の利用者動向が横ばいであることについて、駅周辺の状況が変わらなかったこと以外の要因として、市の人口増加が緩やかであったことを追記すること

4 野洲駅南口周辺整備構想について ～心と体の健康によるにぎわいづくり～

- ・まちづくりの主体は市民であり、行政の役割は市民を支える公共サービスの提供であること
- ・市民が求めるにぎわいは「人と人とがつながることで生まれるにぎわい」であること
- ・3つの視点から「心と体の健康」をテーマににぎわいづくりに取り組むこと
- ・「心と体の健康」をテーマとした「人と人とがつながることで生まれるにぎわい」のイメージ図

を記載

→ 修正なし

機能の選別（市民活動拠点の整理）

- ・多目的に利用、多世代が利用、機能の複合化による集約、鉄道利用者の集客といった空間利用の考え方

- ・南口周辺整備に必要な6つの機能

を記載

◆市民広場（人と人との出会いが生まれる市民広場）

◆交流施設＜コミュニティ施設、観光物産案内、子育て施設 など＞

（人と人との出会いを促す交流施設）

◆図書館分館（駅前の特性を活かした市民の利便性を高める図書館分館）

→ 図書館分館からは一定規模のハコモノがイメージされることから、分館を分室に修正すること

→ 「駅前の特性を活かした市民の利便性を高める」を「駅前の特性を活かした質の高いサービスが享受できる」に修正すること

→ 「図書の貸出返却窓口」を「新刊情報の提供や図書の貸出返却窓口を設置することによる利便性の向上」に修正すること

◆アリーナ（文化やスポーツ活動など多目的に利用できる屋内空間としてのアリーナ）

◆病院（心と体の健康をテーマに魅力あるまちづくりとしての病院）

◆商業サービス（心と体の健康に関連する商業サービス）

→ 「工場立地特性を踏まえたホテル」については、「快適」や「もてなす」といった表現による修正提案があったが、機能としての整理であることから当初案どおりとする

5 野洲駅南口周辺整備構想を実現するために

- ・この報告書を土台としてにぎわいを実現し、持続させるための課題を記載

◇市民が一体となった取り組みの継続

◇適切な規模を踏まえた機能の検証

→ 「検討委員会においてまとめた6つの機能を前提に次の検討を進める」といった修正提案があったが、規模を想定しながら機能そのものの再検証が必要であるとの判断から、当初案どおりとする

◇野洲らしさを感じることのできる機能配置

→ 「おうみ富士農業協同組合所有地を活用しなければ整備構想が成立しないという危惧があることから、譲り受けるための交渉を行うべき」といった積極的な表現への修正提案があったが、市有地のみを活用であっても6つの機能配置は可能であること、また、当初の区域設定時点で異議のない旨を確認していることから、当初案どおりとする

◇段階的な整備計画の策定

→ 当初案を補足するために、立体化等の語句を追記すること

◇事業費の捻出

2) その他（今後の検討の流れ）

○野洲駅南口周辺整備構想検討委員会からの検討報告を土台とし、今後、整備構想策定に向けた検討の流れについて説明

- ・滋賀県立大学、立命館大学、野洲市の三者による共同研究を実施
- ・市民の思いと専門家のノウハウを融合させ、駅前のポテンシャルを最大限活かせる提案づくりを進める
- ・市民ワークショップ等によって広く市民意見を反映し、オープンな検討を進め、平成26年夏頃に研究成果を発表予定